



第67期生 卒業おめでとう



pixta.jp - 5464376

－鴻陵行事の由来を知り、襷をつなぐ(Ⅱ)－

3年生の皆さん、明日はいよいよ卒業式。頑張った皆さんに相応しい、立派な卒業式になることを楽しみにしています。進路について、国公立大学の合格発表はまだですが、多くの私立大学の受験の峠は越えました。個々には色々な結果や思いがあるかと思いますが、全体としては、努力が実り良い結果がでていると思います。どのような結果だったとしても、合格は「ゴール」ではありません。「そこで、どう学ぶか」が次の勝負です。人生にゴールはありません。頑張ってください。受験に向け素晴らしい「団体戦」を戦っていた3年生に心から「Good Job !」と労いしたいと思います。

3年生が自宅学習期間に入っていた時、『鴻陵生へ NO.5』でロードレース大会、校外学習などの鴻陵行事について生徒に呼びかけました(3年生のみ裏面)。全学年の生徒の皆さん、「鴻陵行事の由来を知り、襷をつなぐ」。PART Ⅱです。

鴻陵祭

「鴻陵祭は本校の数ある行事の内、最大かつエネルギーな行事である(『創立40周年記念誌』より)」



昔も今も、鴻陵祭は本校最大の行事です。現在の鴻陵祭のクラス参加の基本は、1年生は企画もの、2年生は飲食もの、3年生は演劇、となっています。強制ではありませんが、結果的にそれが続いています。下級生は、3年になったら演劇を、と思いながら臨んでいるのかもしれない。そのクラス演劇は、1972年(第25回)に3年3組が「どさまわり」として登場して、寸劇「白雪姫」と人形劇「かちかち山」を上演してから始まり、3年全クラス実施が1983年。そして1988年から途切れることなく全クラス実施が続いて、実に26年になります。それ以前はというと、クラス発表はあまりなく、主に文化系部活動と委員会の発表が中心で、体育祭、合唱祭、講演会、芸術鑑賞会等と組み合わせて何日かけて行っていました。文化系部活動の発表が充実していることも、本校の文化祭の長く続く伝統です。来場者は50年近く前からすでに4000人余りに及んでいました。

生徒が、これほど熱中するものを持ち、また実際熱中できることは、誇るべき伝統・特色で

す。様々な成長やクラス団結の機会ともなる鴻陵祭。これからも本校にとって大切な行事であり続けるため、頑張って取り組んでもらいたいと思います。

一方、今受け継がれている伝統の形は、その時代その時代で、生徒たちが自分たちを取り巻く環境の中で、やれることとに一生懸命に取り組んできた結果の姿です。決して、決まった形を何十年も続けてきたわけではありません。そう考えると、近年、伝統を「守る」ということに、マンネリ化や前例踏襲化の要素はないでしょうか。文化祭準備と3年生の学習活動のバランスをとることは、現役進学率90%超の現在、喫緊の課題でもあります。勉強も、部活も、演劇も、を追求する事は鴻陵生らしくてとても素晴らしい。しかし、必要な変化・工夫も怠れません。42年前、「どさまわり」で演劇を始めた先輩達も、その前にあった何かを捨てるか、改定して新しい文化を創造していったはずで

す。次の一文は、30年前発行の『創立40周年記念誌』の鴻陵祭関係記事の最後の言葉です。

「第38回(1985)、今年も3年生は演劇である。演劇時代の次には生徒は何時代を創造していくのか興味深い。巷の低俗文化に決別し、更に格調高い鴻陵文化を創造していった欲しいものである。」 同感です。

鴻陵行事について-やってみなはれ-

全校遠足、クラス合宿、体育祭... 今はない行事がかつてはありました。生徒が真剣な討議の末に提案し、学校と話し合い、承認される。そうして様々な行事が生まれ、変化・進化してきました。生徒のこの自主・自律の姿勢こそ、不易の鴻陵魂。つないでいく襷そのものです。自分たちの代でこんなことを創造した、改善した。そういう経験が皆さんの成長を促し、自信を生み出してくれるはずです。

私は、サントリー創業者の鳥井さんの「やってみなはれ」の言葉が好きです。失敗を恐れ、出来ない理由ばかり探して結局何もしないのは、好きではありません。成功の反対は失敗ではなく何もやらないこと。若者らしく、頭を柔らかくして発想転換し、生徒諸君が行事に関して、さらに改善・創造してくれることを大いに期待しています。



